

青少年むらやま

第38号
2022年
令和4年2月22日

提言



西川町青少年育成町民会議会長

伊藤 功

時代が変わっても 残したいもの

コロナ禍により、様々な催しや事業が中止や延期を余儀なくされているが、これを機に改めて開催の趣旨や意義・価値について考えてみる必要があると思う。私からは西川町駅伝競走大会について記させていた

西川町駅伝競走大会は昭和二十九年の西川町誕生を機にその翌年から始められた。当時の「西川町報」によると、第一回の大会は西川町連合青年団・西川町・西川町教育委員会の主催により、各単位団から選ばれた青年たちが町内を疾走し熱狂のうちに終わるとあった。今見ても新町建設の熱気が伝わってくる。

私は町の駅伝には格別の思い入れがある。それは大会の回数と私の年齢が同じだからだ。昔は高校生から出ることができたので、十六回大会から六十回大会までの四十五年間、選手あるいはスタッフとしてずっと関わってきた。私が参加した時は連合青年団対抗ではなく、各地区の公民館対抗に

なっていた。おぼろげな記憶によれば我がチームは、公民館に集まって夕方七時頃から八時過ぎまで練習して終わってから食事をするというパターンが大会当日まで約二ヶ月続く。練習後の食事は、カレーライズなどごちそうになった。婦人会の方々が毎日当番で賄いをしてくださっていた。高校生の十代から四十代までの走る人、監督やコーチやスタッフ、そして婦人会の方々、いつも二十数人は集まり活気に溢れていた。

それから十年、二十年、時が過ぎるにつれ、若い人は少なくなり、選手は高齢化していった。今は中学生の出場枠もあるが、少子高齢化はこの公民館の駅

伝チームでも同じ悩みだ。それでも、様々な工夫をしながら六十数回も続いてきたというのは走る楽しさや多世代の交流とタスキをつなぐ熱い思いをみんなが共有してきたからではなからうか。

駅伝は町で最も盛り上がるスポーツイベントの一つでもある。中学生から高校生、お父さん、おじいさん、そして親子で、兄弟姉妹が一緒になってタスキをつなぐ姿には胸が熱くなる。今、改めて各地区の取り組みの努力と開催意義の大きさに気づく。

コロナ禍でこの二年間中止せざるを得なかった駅伝大会だが、来年度は万難を排しぜひ開催されることを期待している。



文化祭にて啓発キャラバンのティッシュ配り



MYボランティアセミナーにてサークル紹介

山辺町

あいさつ運動・学校訪問
（意見交換）

山辺町青少年育成町民会議では、大人が子どもに率先してあいさつをすることで、地域に挨拶ができる子どもたちを増やしていく取り組みである「あいさつ運動」と町内の学校との情報共有により、地域との連携を円滑に行うことを目的とした「学校訪問」の事業を新たに実施いたしました。



あいさつ運動は、十二月の早朝の雪空の中、山辺小学校の昇降口前で実施し、寒さに負けず元気に登校する子、おしゃべりに夢中になっている子など、さまざまな子どもたちの様子を見る良い機会となりました。

あいさつ運動の後、山辺小学校の佐藤校長と意見交換を行い、コロナ禍による閉塞感や長時間ゲームによる生活の乱れなど、学校教育だけでは対応が難しい問題があること、そしてそれらを家庭教育の充実や地域活動などで支えなければいけないことを実感いたしました。

今年度もコロナ禍により様々な事業に制限がかけられておりますが、「いじめ・非行をなくそう」・「大人が変われば子どもも変わる」県民運動を推進し青少年健全育成に努めてまいります。

朝日町

みんなであさひっ子の生活習慣を考えよう！

朝日町青少年育成町民会議では「育てよう生きる力」をテーマに、町民一丸となって子どもたちの健全やかな育ちを見守り、未来を担う「たくましい子ども」そして「豊かな心」を育むことを目標に活動しています。

今年度はコロナ禍においても実施できる事業として、オンラインで講師をお呼びし、「みんなであさひっ子の生活習慣を考えよう」テレビ・スマホ・ゲームは控えめに」というテーマの講演に親子で参加していただきました。

感染症対策のために町内の全小中学校4校それぞれで開催しました。講演会場と参加者の分散を図ったことで、より多くの町民の方が参加することができました。

講演の中では、テレビ等のスクリーンタイムが与える影響や上手な向き合い方を教えていただきました。親子と学校の先生方がみんなで同じ講演を聞くことにより、家庭と学校でお互いにスクリーンタイムの重要性を理解し、生活習慣を見直すきっかけになったものと思われまます。

今後も当会議では、あさひっ子の健全な育成を手助けできるよう活動してまいります。



東根市

登校中の生徒に「声かけ運動」実施

東根市青少年育成市民会議では、安心・安全な地域社会づくりを目的として市内の中学校において、登校中の生徒への「声かけ運動」を実施しています。今年度は七月八日に第三中学校と大富中学校、同月十五日に神町中学校と東桜学館にて行いました。



東根市青少年育成推進員を中心とした市民会議委員や各学校の先生等が参加し、登校してきた生徒たちに「おはようー」と声を掛けました。生徒たちからは「おはようございます。」と元気なあいさつが返ってきました。

また、例年、声を掛けながら配布していた「非行防止を呼びかける啓発物品（メッセージ入りのティッシュ）」は、新型コロナウイルス感染防止のため、各学校教室内にて配付いただきました。来年度は、今年度実施していない市内中学校で行う予定です。青少年育成市民会議は、これからも市民の皆様と協力しながら、青少年健全育成のために活動していきます。

推進員部会研修報告

今年度の推進員部会研修会が、九月二十六日(日)に大石田町「虹のプラザ」において、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため参加人数を五十人に限定し開催されました。参加者全員が、山形県教育庁村山教育事務所社会教育課長、井上敏春氏の講演『これから求められる地域と学校の連携・協働について』を核とした地域づくり～コミュニティ・スクールと地域協働活動の一体的推進～を拝聴しました。

◇講演より 【はじめに】

今、日本は人口減に伴って、様々な課題に直面している。(学校数・児童生徒数の減少、地域の衰退・消滅の危機、地域や家庭の教育力の低下・・・)これらの課題を解決するために、国際連合が示す「SDGs 2030年までに全世界で達成を目指す持続可能な17の開発目標」に取り組む必要がある。

地域や学校においては、「地域に開かれた学校」のもと、これまで行われてきた学校支援活動、HPによる情報公開、公開授業、学校評議員制度等の取り組みを、今後はさらに地域と学校の連携・協働を進め「地域とともにある学校」を目指し、学校運営協議会を設置したコミュニティ・スクールに取り組んでいく必要がある。本県においても令和三年度末までには、約七割の学校で学校運営協議会(コミュニティ・スクール)を設置する予定である。これからは、学校(コミュニティ・スクール)と地域学校協働本部の連携・協働(地域学校協働活動)をより積極的に進めることが大切である。



【学校運営協議会の主な役割】

- ① 校長が作成する学校運営の基本方針を承認すること。
- ② 学校運営について、教育委員会又は校長に意見を述べるができること。
- ③ 教職員の任用に関して、教育委員会が定める事項について、教育委員会に意見を述べることができること。

【地域学校協働活動の具体的な取り組み例】

- ① 学びによるまちづくり、地域課題別学習・郷土学習(地域資源を活用した学習プログラム)
- ② 放課後子ども教室(学習や体験・交流)、地域未来塾(学習支援)
- ③ 家庭教育支援活動(不登校への対応、保護者が学び合う機会づくり)
- ④ 学校に対する多様な協力活動(登下校の見守り、出前講座等)
- ⑤ 地域行事、イベント、お祭り、ボランティア活動等への参画

【コミュニティ・スクールや地域学校協働活動に 取り組んだ学校の先生方、地域住民の声】

- ・ 様々なボランティアの方によって、子どもにとって必要な学習を行うことができた。
- ・ 子どもたちの地域への理解や興味が高まった。
- ・ 地域に子どもが戻った。
- ・ 子どもや孫がいないと学校に行きづらかったけど、こうした活動のお陰で学校に行くことができるようになった。



【まちづくり】

「地域づくり」は「道路」や「公共施設」などの「まちづくり」から

↓ 「人づくり」の時代へ

「田舎を都会化して人口増を!」

↓ 都会の街並みは造れても

「失われた地域は」は二度と創れない。

山形県青少年 健全育成県民大会

十月三十一日(日)、酒田市を会場に行われる予定だった令和三年度「山形県青少年健全育成県民大会」が、新型コロナウイルス感染症の影響により、内容等を縮小し、初めてオンライン配信にて開催されました。

大会の中で、山形県青少年育成県民会議表彰と、いじめ・非行をなくそう。やまがた県民運動の優秀標語・ポスター表彰がありました。村山地区からは、長年各地区での街頭指導活動や青少年の非行防止等の青少年健全育成活動に貢献してこられた方々に送られる「青少年育成成功労者」として、新関知己さん(天童市)が表彰されました。また、優秀標語作者として、山形県立村山特別支援学校中学部三年の小座間翔英さんが表彰されました。大会の中で行われた「いじめ・非行防止セミナー」では、第六十回山形県少年の主張大会で最優秀賞を受賞した小国町立叶水中学校三年の野崎さよ子さんによる主張発表(ビデオ上映)、酒田市青少年を伸ばそう市民会議の池田久美子副会長による事例発表がありました。

セミナーの後半は、情報モラル教育、スマホ・インターネットの正しい使い方などを専門に年間五十回以上の講演や啓発授業を行い、青少年のネット問題に精通している(一社)ソーシャルメディア研究会チーフ技術指導員の竹内義博氏による「スマホ世代の子どものために大人ができること」を、コロナの時代に向けて」と題した講演が行われました。

所感



大石町町青少年育成推進員会
会長 鈴木 善巧

はじめて推進員になってから現在に至るまで社会は大きく変化してきた様に思える。特にIT化は目まぐるしいスピードで進歩したと思う。コロナ禍が一層拍車をかけたようだ。今やIT機器を使えない様な人間は時代に取り残されるようになってきているがIT化が進み便利になった反面、以前は無かった事件や問題が頻繁に起きている。犯罪に巻き込まれる少年たちの年齢も年々低年齢化し、命も脅かされている様に思う。自分は現在、放課後児童クラブで働かせていただいている。かれこれ十年になる。小学校一年から六

年生までいるがほとんどの子どもたちがネットゲームに夢中になっている。一日六時間もゲームに費やす児童も珍しくない。「フォートナイト」といった戦争ゲームが人気らしい。児童同士で喋っているのも耳にするが、自分にもいろいろと教えてくれる子もいる。たまにゾツとすることをいう子もいる。例えば「本物の銃で人を撃ちてー」とか「大麻って気持ちいいの」、「リアルな女子は嫌い、バーチャルの女子が好き」等々、ここでは文字にできないようなことをいう児童もいる。昔のロックバンドの「命の値段も下がったと……」という歌詞のように命の尊さが昨今薄らいできていくように感じる。

以前、自分の職場でこんな事があった。子どもたちが大好きな優しい女性の先生が事故で亡くなってしまった。一人の六年生の児童が亡くなってから毎年児童館にきては泣いていた。そんな時、自分に「先生。何で人が死ぬとこんなに悲しいの?」と問われた。自分はハッとされた。あまりにも唐突で正直どう答えればいいのか分からなかった。もう少しで出るとこだった言葉が「あたりまえ」という言葉であった。果たしてそうだろうかと自問自答した。その子に自分が出した答えは「先生のこと本当に大好きで先生を思う優しい心が悲しませるんだよ。あなたに先生はずっと優しい心を持って大人になっていく願いを置いていったんだよ」だった。泣きながら「うん」と深くうなずいてくれたことがうれしかった。高校生になったその子もたまにボランティアで児童館にきてくれている。

いくらIT化が進歩しようと命の尊さの意味を伝えていかなければと思う。

令和三年度
村山地区優秀標語

いじめ・非行をなくそう やまがた県民運動

優秀

いじめ菌 コロナといっしょに ふっ飛ばそう!

山形県立村山特別支援学校中学部3年 小座間翔英さん

次点

マスク顔 見えない表情 考えよう

上市市立南小学校6年 五十嵐袖南さん

タブレット 書き込み一つで 傷つく心

西川町立西川小学校6年 古澤穂乃花さん

いじめウイルス 止めるワクチン 思いやり

東根市立東根中部小学校5年 黒沼 亮人さん

優しさの 消毒液で いじめ予防

山形市立第九中学校1年 高橋 優愛さん

いじめの芽 つむのはみんなの 心の手

西川町立西川中学校1年 國分 夕愛さん

「やめようよ」言えた勇氣に 金メダル

村山市立楯岡中学校1年 田部井羽叶さん

村山管内の小・中学校及び特別支援学校合わせて、二二八〇点の応募がありました。ご協力に感謝申し上げます。
地区選出標語ポスターと標語入りティッシュを作成し、標語ポスターは管内の小中学校・中学校・特別支援学校に掲示していただき、標語入りティッシュは管内の全児童・生徒に配付しました。

編集後記

◆「おはようございます」毎朝当たり前のように交わされていた爽やかな大きい声と明るい笑顔での「朝の挨拶」が、新型コロナウイルス感染防止によるマスク着用のため、見ることができなくなつて早二年が経とうとしています。なくなつて初めて、これまで数えきれない程のたくさんの方のエネルギーを「朝の挨拶」から貰っていたことを実感しました。

当たり前のものは、失つて初めてその偉大さに気づくものであり、当たり前のことこそ、日々丁寧に実践していかなければならないものであることを改めて知ることができました。

◆ご多忙のところ、玉稿をお寄せいただいた提言の伊藤氏、所感の鈴木氏に感謝申し上げます。また、各市町から様々な取組みを紹介いただきました。「寄稿に感謝いたします。」